

「新しい自分を見つけよう！きらりキャンプ in 阿蘇①」事業報告書

企画指導専門職 三枝ひとみ

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 自然体験を通して、熊本地震の影響や不登校（不登校傾向、別室登校などを含む）など心に悩みをもつ青少年に自然体験の楽しさや達成感を感じさせ、自己肯定感を育む。また、交流の家での生活を通して、規則正しい生活のよさや友達と交流する喜びを感じさせ、基本的な生活習慣づくりのきっかけとなるようにする。
- (2) 期 日 平成 29 年 6 月 18 日（日） 【日帰り】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 6 名（中学生 3 名・小学生 1 名・幼児 1 名・引率 1 名）
- (5) 担当職員 三枝ひとみ（企画指導専門職）安部信吾（企画指導専門職）
宮本賀通（事業推進係員）益田力（事業支援室主任）
法人ボランティア 2 名
- (6) 内 容 レクリエーション（ネットネットゲーム・バドミントン）
バウムクーヘン作り

2 成果と課題

(1) 成 果

- 「全体的にすごく楽しかったです。」（参加者）、「たくさんの職員さんに活動してもらえて、子どもたちも楽しそうでした。」（引率者）などの感想があった。体を動かす活動や自分たちでおやつを作る活動を取り入れたことで、参加者が楽しみながら活動でき、高い満足度を得ることができた。（満足度 100%）
- バウムクーヘン作りでは、「みんなで協力できてよかった。」「時間はかかったけどできてよかった。」などの感想が聞かれ、達成感を感じていることがうかがえた。
- レクリエーションにおいて、ボランティアによる進行の場面を設定したことで、参加者とボランティアの距離が縮まり、すぐに打ち解けることができた。
- 参加者は少なかったが、担当職員やボランティアも一緒に活動することで、参加者にとって日常生活では関わることのない人との交流の機会となった。担当職員やボランティアと打ち解けたことで安心感をもち、第 2 回への参加意欲にもつながった。

(2) 課 題

- 参加者が募集人員に達しなかった。第 2 回に向けて募集地域を拡大し、教育委員会や校長会などで今回の成果を報告するとともに、該当者へのチラシ配付の依頼を再度行う必要がある。
- バウムクーヘン作りに時間がかかり、片付けや閉会式の時間が十分にとれなかった。事前に試行し、参加者に応じた活動時間を考慮する必要がある。
- 参加者のニーズに合ったプログラム編成ができるように、参加者の学校での様子や配慮事項などについて事前に学校の先生に確認し、担当職員やボランティアで情報を共有する必要がある。